

丹沢大山保全緊急対策検討委員会 取り組みの概要

1. 取り組みの経緯

■平成 16 年度に丹沢大山総合調査を開始したところ、シカの影響により林床植生の衰退した斜面で土壌侵食量が非常に多いことが判明した。

■そのため、シカによる林床植生衰退を原因とする自然林内の土壌侵食対策を焦点として、県と丹沢大山総合調査団が連携し、平成 17、18 年度の 2 カ年、計 7 回の委員会を開催して検討した。

2. 本委員会の検討課題

■環境負荷の小さい土壌保全技術の改良・開発

(植生保護柵による植生回復効果は明らかだが手法としては限界があること、特別保護地区内のため従来よりも環境負荷の小さな手法が必要であることから)

■流域全体での統合的な土壌保全対策とその考え方

(従来計画における流域全体を一体とした対策の推進を継承する、自然林内の植生劣化が柵でシカを排除するだけで済むような単純な問題ではない、という認識から)

3. 委員会構成

	氏名	所属役職
専門委員	委員長 鈴木雅一	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 (水と土再生調査TL) 【森林・水・土部門】
	石川芳治	東京農工大学大学院共生科学技術研究部 教授 (水・土GL-水と土再生調査T) 【土木・土壌部門】
	羽山伸一	日本獣医畜産大学 助教授 (政策検討WGL) 【自然再生事業部門】
	富村周平	(株)富村環境研究所 代表 (山のなりわい複合戦略GL-地域再生T) 【森林部門】
	伊藤雅道	横浜国立大学大学院環境情報研究院 (シカ影響調査GL-生きもの再生調査T) 【シカ影響部門】
NPO団体	中村道也	丹沢自然保護協会
	(H17) 池野 正	丹沢大山ボランティアネットワーク
	(H18) 有川百合子	
オブザーバー	環境農政部緑政課 環境農政部森林課 県央地域県政総合センター農政部森林課 自然環境保全センター県有林部 自然環境保全センター自然公園部	
事務局	自然環境保全センター研究部	

4. 検討結果の取りまとめ

■平成 19 年 3 月に本編と資料編から成る報告書を取りまとめた。(概要は別紙参照。)

本編: 土壌侵食の現状整理と対策の検討過程及び検討結果

資料編(CDROM 収録): 委員会開催記録、関連資料等